

# 桜陽高校だより

困難な時代を生きる

～ 逆境の先にあるもの ～

校長 西川 勤



校訓  
賢く 強く 豊かに

## 学校教育目標

- (1) 研学に努め、知性を錬磨する。
- (2) 環境を整え、公共心を涵養する。
- (3) 責任を重んじ、道義心を涵養する。

卒業生の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。心より喜び申し上げます。卒業に至るまで、本人の努力はもちろぬ、保護者の皆様には多くのご苦労があったことと拝察いたします。また、これまでのPTA活動並びに学校行事など本校の教育活動に対しましてご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

卒業にあたり、まず卒業生の皆さんに餞の言葉を送ります。皆さんにとつての高校生活は、3年以上続くコロナ禍の中、様々な活動に制限が加えられたり、我慢や変更を強いられたりと、これまで体験したことのないこと連続でした。そのような状況の中、現実をしっかりと受け止め力強く歩もうとする皆さんの姿に頼もしさを感じていました。皆さんが決して自分を見失うことなく、それぞれの目標に向けて努力を重ね続けてきたことは、皆さんにとつてこの上ない財産です。皆さんのこれからの人生におい



第106号  
令和5年  
3月1日発行

ても、今まで考えたことがないような様々な問題に直面することがあるはず。思うようにならなかつたり、苦しいとき、つらいときは必ずあるものです。そんなピンチの時、もがいたりあがいたりしながら自分を見失うことなく自分の頭で考える経験こそが、心の芯を太くさせ、自分を成長させるチャンスです。これから先の困難な時代を生き抜いていくためにも、自分の頭を使い、強い心で目の前の壁を乗り越え、強心で、自分をさらに磨き続けるとともに、自分をさらに磨き続け自分の願う生き方を精一杯模索してください。これからの皆さんのますますのご活躍と未来が輝かしいものとなることを心から願っています。

さて、世界を震撼させている新型コロナウイルス感染症は、社会の課題を浮き彫りにする一方で、ICT技術を活用したリモートワークなど、新しい働き方を生み出す契機となりました。リモート会議も一般化しつつあり、アフターコロナにおいても継続することが予想されます。対面でしか伝わらない空気感もありますが、それぞれの利点を活かしつつ、コミュニケーションのひとつの選択肢として補充し合い、これまで以上に人と人のつながりが円滑にできればと思います。世界では、地球上の環境破壊、紛争、差別、貧困などをなくし、持続

## 目次

- P1 学校長
- P2 3年次主任
- P3 2年次主任
- P4～6 部活動結果

可能な明るい未来を築くための指標としてSDGsの17の到達目標（Goal）が定められました。現状、コロナ禍による世の中の数ヶ月先の見通しを立てることさえ難しい閉塞感、ロシアのウクライナ侵攻等国際情勢の不安定さ、エネルギー問題に絡む電気代の高騰等の物価高、国内外における課題は枚挙に暇がありません。

より良い生活を求める中で、犠牲にしていることがないかバランスを考え対処しなければならぬ難しい時代です。課題解決には、多様な人々と知恵を出し合い、協働して取り組むことが求められる時代となりました。これまで得た知識を場面に応じて活用し、自ら考えて課題を発見し解決していく力、すなわち、「創造する力」が求められています。「ピンチはチャンス」、困難は変革の原動力であり、よりよい社会の力となるといわれています。

本校といたしまして、子どもたちに期待されるこれらの力が身につけられるよう今後とも教育活動を展開してまいりますのでよろしくお願いたします。

結びに、保護者の皆様のこの一年間の本校教育活動に対しましての深いご理解と心強いご支援に心から感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご理解とご支援を申し上げます。ご挨拶といたします。

## 卒業生の皆さん

「卒業おめでとう」がいます

三年次主任 寺本宜生



皆さんが入学してきたとき、私は教務部長という生徒の学習全般に関わる仕事を担当していました。そのため、入学直後のオリエンテーションで皆さんの前で話をさせてもらう機会がありました。皆さんの卒業を迎え、年次主任を務め

た2年間の話よりも、オリエンテーションで話したことが不意に強く思い出されました。何を言ったか覚えていないでしょうか。卒業にあたり、改めてその際に話した内容を以下に記させて下さい。

高校で学ぶ前に、「桜陽高校で何を学ぶのか」と「なぜ高校で学ぶのか」を考えてほしい。まず、高校で何を学ぶのか。高校は義務教育ではない。高校卒業の資格であれば、高校に入学しなくても取ることではある。では、なぜ高校に進学し、何を高校で学ぶのか。それは、単に勉強だけでなく、心や社会性も学ぶためです。素直な心、他人への思いやりや気遣い、感謝、仲間と協力すること、みんなで力を合わせて何かをやり遂げること。目標へ向かって努力すること。勉

強以外の部分でも学ぶべきことがたくさんある。この勉強以外の部分でも学ぶべきことを高校生活の中で学んでいってほしいと思っている。

次に、なぜ高校で学ぶのか。他人から何かを教える必要があるからである。自分だけでは学ぶことができないことを、他人から教えてもらいたいから高校で学ぶのである。もちろん勉強のことが最初に出てくるが、勉強以外のことも学んでほしいと話した。だから、それ以外の社会性や一人一人の気持ちの持ち方などこれからの長い人生で必要とされることすべて、学んでいってほしい。勉強以外のことも学ぶから、教えてもらう他人とは、先生だけではなく、同じクラスの友人、先輩、後輩など自分と関わる人全員のことになる。誰ということなく、様々な場面で様々な人から学んでいくのが、本当の学びである。なので、友人同士の間でも思いやりや敬意が必要であり、素直に謙虚に教えてもらうという姿勢を持ち続けて

いってほしいと考えている。

このようなことを話させてもらいました。当時も今も学びに対する思いは大きくは変わっていません。皆さんが卒業を迎えるにあたり、オリエンテーションで話したことを改めて噛み締めています。さて、卒業生の皆さん、皆さんは桜陽高校での3年間で何を学んだでしょうか。2年次からは年次主任として、皆さんと数多くの場面で接してきました。日頃の授業や年次集会など、多くの場面で皆さんに話をする機会もありました。皆さんに何かを教えた、何かをした、と偉そうに自慢する気はありません。ただ、桜陽高校での3年間で勉強以外のことも含めて、学んだものが見いだされていけば、関わった人間として嬉しく感じます。

卒業生の皆さん ありがとう。  
君達の未来に幸あれ。

# 『見学旅行を終えて』

二次主任 荒井 暁

十一月一日から四日まで三泊四日の日程で見学旅行を実施いたしました。昨年と同様にコロナ禍が引き続く一方で、国の旅行支援も始まるという、何とも微妙な社会情勢の中での実施となりました。入学時からの予定通り、関西地域における研修となりました。

第一日目は、団体旅行の規則変更もあり、スムーズな乗り継ぎが不可能で、京都旅館への移動だけで終了となりました。その代わり、関西文化に関する講演会として、福岡出身の吉本興業の芸人さんのステージを旅館で鑑賞しました。生徒たちは大いに盛り上がっていました。残念ながら写真が撮りましたが、アップはNGということで、お話だけでご勘弁ください。

第二日目は、京都市内の有名観光地を満喫しよう、ということ、朝から「伏



見稲荷大社」、「清水寺」、「金閣寺」、「嵐山」を次々に巡りました。どの観光地も京都を代表し、国際的にも有名な場所ばかりだったので、一日だけの全体研修でしたが、一息で京都を満喫できたようです。「縁結び」で有名な清水寺境内の地主神社は工事中で入れず、残念だった人もいたかもしれません。各所では、海外からの観光客もちらほら見かけ、少しずつ以前の活



気が戻っていることを感じました。旅行支援として旅行日だけ現地でするクーポンが配布されたので、お土産の購入などに有用に使えたようでした。恨み節となりませんが、引率の教員には配布されませんでしたので、ただただうらやましい思いでした。

第三日目は、研修班別のグループ研修でした。事前学習で立てた計画案に従って、京都の旅館を朝出発し、京都・大阪各地の研修を行い、各自で大阪のホテルへと移動しました。USJに行くグループが約半数ほどでしたが、終日ではなく、



昼過ぎにUSJを出て大阪市内の道頓堀や心斎橋、鶴橋などを見学した班が多かったようです。京都市内でスイーツの食べ歩きをした班もありました。複雑な大阪の駅構内で迷ってしまった班もあり、成功体験だけではありませんでしたが、自ら考え、検索して、行動した経験は、今後の人生にいかせる場面があるのではないかと思います。

最後の第四日目は大阪のホテルをバスで出発し、奈良まで移動、東大寺のある奈良公園の見学を行いました。道民にはなじみのある鹿ですが、人に群がる習性

のある鹿にオラオラと多くの生徒が絡まれていました。鹿との交流後、「あうん」の呼吸で有名な金剛力士像の南大門をくぐり抜け、巨大な奈良の大仏さんの姿を見て、みんな圧倒されました。その後、大阪空港から羽田を経由し、夕方無事に北海道にたどり着きました。

様々な事情で旅行に参加できない生徒もいました。旅行中、体調を崩してしまった生徒もいました。ただ、想定していたよりも小さい影響にとどまり、何とか四日間の日程を完遂することができました。高校生活最大の行事ともいえる見学旅行が終わり、ここを画期として、今度は進路実現に向けた本格的な動きが開始されます。約一年間の長丁場になりますが、努力しなければ得られないものもありますので、悔いが残らないようにこれからの日々を過ごして欲しいと思っております。

我々教員もしっかりとバックアップしていきたいと考えております。保護者の皆様方もお子さんに寄り添い、心と体を支えていって頂ければと思っております。